

# 発表の場をつくる



珠 玖 仁

毎年東北支部で主催・共催してきた行事の中には、何十年も続けて開催されてきた伝統ある学会から、若手を中心に企画されたもの、関東支部と合同のものや他学会とのコラボで開催されているものなど実に多岐わたります。年ごとに、参加するメンバーもトピックスも特色があり、私個人に限っても20年の歳月の積み重ねであり、実に感慨深いものがあります。東北支部の活動を通して、全国の日本分析化学会会員の皆様とお会いし、分析化学とかかわりをもった方々、さらにその関係者との交流の輪を深めることができることに対し、大変ありがたく感じております。

発表の場は、研究室内のセミナーで行われる論文紹介や中間報告から、地方の学会、全国大会、国際大会など様々あります。聴き手の反応、交わされた質疑応答のコメントにより、発表者だけでなく、その場を共有した全員に何かしらの気づきがあることでしょう。発表の場で、極めて重要な何かの結果が示されたときに、見逃してしまうのか、それに気が付いて掘り下げてみよう、と思うかは本人次第のところもあるでしょうし、同じ個人であってもその時その時により異なるリアクションをし、個々人のなかに知識や経験が蓄積されていくものです。

論文を発表するときに、私たちは誰に向かって情報を発信していくのか？ そもそも、なぜ、私はこの論文を書いているのか？ 一方で、過去の偉大な科学者の中には、まるで日記でも書くように、誰に見せるあてもなく、歴史に残る定理や法則を書き遺した方々もいます。本当のところ、何かを発表する理由は一つではないのではないか、と思ったりもいたします。

つれづれと書きつらねてまいりましたが、少しでも有意義な発表の場を提供できるよう心掛けながら、また東北支部の皆さんのご協力を仰ぎながら、支部長の責を果たしてまいりたいと思います。

[SHIKU Hitoshi, 東北大学, 東北支部長]